

視聴覚教育

NO. 213

発行日 7. 6. 1

発行 岡崎市AVL
編集 広報委員会

視聴覚キーワード
『バーチャルリアリティ』
仮想現実。コンピュータ
タの中に空間を作り上げ、
利用者の視覚・聴覚・触
覚情報をコンピュータと
交換し、実際にはないもの
を現実感をもって認識さ
せることができる。

平成七年度

自作ビデオ作品決定!

今年度も、現職教育委員会視聴覚部、社会科
部、理科部による自作教材制作が始まりました。
次の六つのテーマに取り組みます。

『今も生きる伝統の技—八丁みそ作り—』

対象 小五社会 A班

岡崎市が全国に誇る八丁みそは今でも手作業
を残している。八丁みその歴史を探り、今も生
きる伝統の技を取り上げたい。

『リサイクル活動』

対象 中三社会 B班

資源の有効利用と自然保護の立場から進めら
れているリサイクル活動。しかし、分別収集・
解体など、コスト面での問題を抱えている。

「価格か環境か」リサイクルの現状も踏まえな
がら、消費活動を見つめ直す作品にしたい。

『水のゆくえ』

対象 小四社会 C班

ふだん、何げなく使っている水道の水。当た
り前のように手に入る水も、水質汚濁や空梅雨
による水不足など、私たちの生活に及ぼす影響
は大きい。生活に欠かすことのできない水を守

る人々の姿を追っていききたい。

『新しい農業経営—花作り—』

対象 小五社会 D班

私たちの生活に豊かさを与え、冠婚葬祭など
儀式に欠かせない花は、どのように生産されて
いるのか。世代交代が問題になっている最近の
農家を追いながら、新しい花き栽培の現状と花
き栽培にかける期待を描いてみたい。

『地震そのメカニズム』

対象 中三理科 E班

今から五十年前に死傷者
六千人以上を出した三河地
震とは、当時の様子を体験
談、記録、爪痕から探り、
地震の揺れ、震源の求め方、
断層の働き方などが理解で
きる作品にしたい。

『城下町—岡崎』

対象 一般 F班

江戸時代、岡崎城下はどのような広がりを見
せていたのか。市内に残る古地図をもとに、城
下の様子を再現する。さらに、現代の町づくり
との関係を、今も残る城下の名残りから探りたい。



|| 視聴覚教育あれこれ ||

マルチメディアを

教育に生かす論理

マルチメディアに関する記事が、頻繁に取り
上げられている。雑誌『教育放送』（日本放送
教育協会発行）5月号の巻頭で、国際基督教大
学教授中野照海氏は、「教育課題から始めるマ
ルチメディアの活用」の中で、教育メディアの
性質をめぐる見解を述べた後、こう結んでいる。

「教育者にとって必要なことは、教育におけ
るメディアの意識化である。『何のために
（目的）』、『だれのために（学習者）』、
『（メディアの性質の）何を活用するのか』
という意識である。」

マルチメディアの利用においては、バッケー
ジ（教材の内容）に意味を置くのか、ネット
ワーク（教材の配布）に意味を置くのかの区
別は、もつとも基本的なことである。それと
ともに、学習のねらいと、学習者の条件を意
識すべきである。…（中略）…教育メディア研
究の歴史は、メディアを生かすには『メディ
アから始めるのでなく、教育課題から始める』
と教えている。この教訓は、現在のマルチメ
ディアの教育利用においても有効である。

いかにすばらしいメディアであっても、どう
位置付けるか、学習効果はその教育の内容と方
法に大きく依存している。私たち教師はそのこ
とを肝に銘じて、教育を進めて行く必要がある。

子どもが動かす委員会

根石小学校 成瀬 茂雄

「昼の放送を変えてみたい。」

今年の放送委員は、抱負をこう語った。五年生のとき社会科の「放送局で働く人々」の学習で、自分たちで番組やCMも作った経験を持つ子どもたち。そのため、今年は自信を持って活動している。台本作り、撮影、編集の苦労も番組ができ、放送したときの喜びを知っているだけに、熱心に取り組んでいる。

子どもたちの発想は、実に豊かである。音楽鑑賞が中心であった昨年とは違い、今年は新しい企画が盛りだくさんである。朗読会、部活訪問、映像クイズ。学校行事の様子を放映する際にも、インタビューを組み込んで番組を作るような工夫が見られる。現在、運動会の番組を作るため、係決めや打ち合わせが進んでいる。

できあがった作品を見ると、教師、子どもとも、まだまだ勉強すべきことが多いと感じる。しかし、子どもたち自身が考え、作っているところに意味がある。番組を見た子どもからは、自分も番組に出たいという声も聞かれており、放送委員はさらにやる気と自信を深めている。

今後、子どもたちのアイディアを生かした主体的な活動を大切にしていきたい。



第六回松下視聴覚教育研究賞理事長賞 受賞！

「主体的に課題追求に取り組む生徒の育成」

— 視聴覚メディアの多角的な活用を通して —

城北中学校

去る五月十二日、城北中学校が第六回松下視聴覚教育研究賞授賞式において表彰を受けました。なお、今年度の松下視聴覚教育研究助成校には、藤川小学校が選ばれました。

II レッツ トライ II

ビデオカメラを 教材提示装置に

教科書や資料集の写真や図表、子どものノートや虫めがねでしか観察できない実物などをテレビ画面に映し出す。これが教材提示の持つすばらしさである。研究授業ともなると、引っぱりだこになるのもうなずけるところである。中には涙をのんで、他の先生にゆずるといふ先生もいるかもしれない。しかし、ちょっと待ってもらいたい。教材提示装置のかわりに学校にあるビデオカメラのマクロ機能をぜひ生かしてもらいたい。サービスクラップの写真であれば、壁に貼ればカメラを無理に下に向けることなく簡単に映し出すことができる。現在の8ミリビデオカメラであれば、ほとんどオートフォーカスなのでピント合わせの苦勞もいらすむ。また、CCDカメラだと、照明装置もいらすむ。教材提示装置より鮮明な画像を得ることができる。ビデオカメラの一味違った使い方を一度試してみたいものである。(矢西小 加藤 尚)

ライブラリーだより

☆刊行物案内

・岡崎の視聴覚教育26号

・自作ビデオ教材活用事例と制作の歩み14集

・視聴覚機器操作の手引きビデオ編集・

OHPTTP作成

・平成七年度放送番組と学習指導関連連表

小学校一年～二年 生活 道徳

三年～六年 社会 理科 道徳

中学校一年～三年 社会 理科

・ビデオソフト・LD教材一覧

今年度は、小学校では学年に一冊、中学校では学年に二冊を配布しました。この中には、次のものが記載されています。

LD教材

自作ビデオ(8ミリ映画)教材分野別一覧

寄贈ビデオ

自作ビデオ教材ラッシュ

VOD入力資料映像

※ 自作ビデオ教材のラッシュは、平成六年度の自作教材を制作するために撮影した映像を短く区切って、いつでも使えるようにしたものです。それぞれに映像の題名がつけられているので、すぐに探し出せるようになっていきます。

